

平成 26 年度第 3 回まちづくり井戸端座談会の結果について

日 時：平成 27 年 2 月 20 日（金）19：00 ～ 21：00

場 所：野洲市役所本館 3 階 第 1 委員会

<参加者>

市民参加者 5 名

山仲市長、中島政策調整部長、井狩健康福祉部長、遠藤健康福祉部政策監

田中教育部長、立入環境経済部長

野玉政策調整部次長、田中政策調整部次長、企画調整課（事務局）、テーマ所管課

<目的>

直近四半期の市政運営や議会で話題になった市民に関心の高いトピックスを集約して最新の状況を報告し、市民の皆さんと気軽に雑談的な雰囲気の中で意見交換をしようとするもの。

<議題>

テーマ 1 野洲市の子育て・子育て支援策について

テーマ 2 新クリーンセンター余熱利用施設整備に関する基本方針について

テーマ 3 （仮称）野洲市立病院整備基本計画について

参加者からの主な意見

【●市民意見、○市回答】

テーマ 1 野洲市の子育て・子育て支援策について

- 発達支援センターは、平成 19 年に耐震対策ができていない建物に設備投資をして整備された。同時期に、当事者から強い要望が無かったなかよし交流館を新築した。そうならないように市民の意見を聞いていく必要がある。現在ある施設を転用し改修するのもひとつの案である。

- 今後市の人口は減っていくのか。
- 野洲市は他市への若年層の転出が顕著であり、今後は減少傾向である。
- 中学校卒業までの通院費の無料化は、人口減少対策としても重要なことではないか。
- ハード整備ばかりしている印象がある。1億円程度の医療費無料化はやらないと判断するのに、病院整備については57億から84億に増えても止めないことに違和感を感じる。財政上厳しい状況であるが、市には駅前等を利用して稼ぐ（収入を確保する）アイデアを示してほしい。
- 市内企業の新社屋建設に伴う雇用の創出についても市が関与した成果だと考えている。観光については取り組みたいが簡単に資源の発掘はできない。市民が愛好する場所や催しがあって、それが魅力ある観光資源になるのであって、取ってつけたものでは観光資源に成り得ない。
- 育児休暇を取得すると、退園しないといけなくなるが、こども園の整備により入園基準はさがるのか。
- 一年後に復帰するとしても、待機があると一旦退園してもらうことになる。
- 子育て施策として育児休暇を取りにくい状況の解消やレスパイト保育の充実を進めていく必要がある。

テーマ2 新クリーンセンター余熱利用施設整備に関する基本方針について

- 温水プールの入場料が高い。スポーツジムと変わらない。
- 温水プールの維持には、維持管理費、人件費等が必要である。その他建築コストも考慮しなければならない。回数券の利用で安く利用することはできる。
- 一部の人の利用のために、温水プールが必要なのかと思う。
- 熱回収の交付金約13億をもらうために温浴施設を整備するのか。
- 余熱利用することで交付金がもらえる。交付金以上の施設を整備すると税で賄わないといけなくなる。どのような施設を整備するかはまだ結論は出ていない。発電も余熱利用の手法のひとつで検討したが、野洲市の規模では採算が合わない。
- 市民の意見を聞いて一緒に考えていくということであるが、施設を決定する基準はあるのか。市民に投げて、市民の意見を聞いて欲しい。
- 温水プールの機能移転をするかどうかについては市民の意見を聞く必要があると考える。近隣市で温水プールの整備計画があるので、見極める必要がある。
- 改めて市に温水プールが必要かどうかの判断が必要である。温水プールを持ち続ける場合は、現施設を改修するのか、熱利用で温水ができるので、クリーンセンター横へ機能移転するという選択肢もあり得る。
- 病院を持ち得ない市が温水プールを持つのはナンセンスである。市民の意見は大事であるが、市としてはどのような選択肢があるかパッケージで政策提案をして、市民の意見を聞いていく。

テーマ3 (仮称) 野洲市立病院整備基本計画について

- 財政はひとつひとつ独立しているのか。
- 野洲市としてはひとつの財政である。
- 病院整備は前に進んでいるのか。土地を病院会計で買い戻すことは市によってプラスなのか、マイナスか？
- 市の一般会計で買うか、病院事業の特別会計で買うかで、野洲市としては一緒である。
- 11億円のびわこ学園の土地は無償で貸しているので、一般会計で取得した土地を病院事業に貸してもいいのだが、病院会計で買ったほうが、起債の償還に対し国からの交付金があり市にメリットがある。
- 病床数が199から180に減るのはなぜか。割りに合わないのか。
- 建設費が高騰する中で、効率的な病床数を検討した結果、経費面と効率面で、1棟45床が4棟で合計180床になった。
- 外部評価委員会で意見を聞きながら、病床数については現在も検討中である。看護師の二交代制や病棟は4人部屋を基本にするなど、効率的でかつコストが落ちる病床数を市民ニーズにかなう形で検討していく。
- 産科がなくなったり、病院規模が縮小になったりしている。経費の削減や稼働率をあげ利用者数が増えることは、市民の健康を守るという基本理念との整合はとれているのか。
- 稼働率を上げるということは、病人を増やそうとしているわけではなく、大部屋のため、使用されていないベッドを小部屋や個室を設定することによって、有効に活用しようとするものである。この結果、現在は他市の病院に行かれている患者さんを取り込むことができる。
- 産科がなくなるなど内容が抑えられているが。
- 抑えてはいない。産科については、市内での出産数は約500人であるが、この数を二つの病院で受け持つよりは、ひとつの病院で受け入れたほうが効率的である。野洲病院では医師一人で約100人を対応しているが、ハードワークである。医師数を増やし産科を成立させることも可能ではあるが結果、市内の産科クリニックに影響を与えることになる。耳鼻咽喉科についても市内の開業の状況をみて検討する必要がある。
- 病児保育・病後児保育の機能については整備検討したい。医業収支については、野洲病院の平成26年ベースで試算したり、効率的な病院にしたりすることによってもっとよくなる。
- 病院をつくるために都市計画税や新たな税など増税はない。
- 市の説明が長い。市民にもっと発言させてほしい。

井戸端座談会に対する感想

- 市長の話がたくさん聞け、大変有意義でした。
- 病院については、必要なものであることは間違いないので、ギリギリまでコストを下げてほしい。
- クリーンセンターの余熱利用は、余熱利用しないこと（交付金を受け取らない）も選択できるのではないか思う。余熱利用施設ができては遠いので。
- 時間に対して内容が濃く、バランス悪い。
- 井戸端座談会という名がついているが、市長が何をやってきたかの話でしかない。市長のお話を聞けるのは大変有意義ではあるが、市民との座談会ではないと感じた。これでは市民は気軽に参加できない。特に若年層には。
- ほとんどの市民がこのような会が存在している事を知らない。市のホームページを見ている人は一握りで、その結果がこの参加人数である。